



作成日：2010年 3月10日
改訂日：2020年10月 1日

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名

会社名
住所
担当部門
担当者(作成者)
電話番号
FAX番号
緊急連絡電話番号
整理番号

気化性防錆フィルム リオラスター

三菱ガス化学トレーディング株式会社
東京都千代田区神田錦町2-2-1 KANDA SQUARE
事業推進部
品質保証グループ
03-6626-3354
03-5577-1062
03-6626-3354
MTI-PM-2590310-201001

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分4
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:気体)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	分類できない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な 損傷性/眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分2
発がん性	区分2
生殖毒性	区分2
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分2 (血液、肝臓)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分2 (気道)
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性	分類できない
水生環境有害性(急性)	区分2
水生環境有害性(慢性)	区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語
危険有害性情報

警告

- ・常温での取扱では特に危険性はない。但し、可燃性であるので、火気に注意する

注意書き
[安全対策]

- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。
－禁煙
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・必要に応じて個人用保護具を使用すること。

[応急措置]

- ・【4 応急措置】の項目に記載

[保管]

- ・【7 取扱い及び保管上の注意】の項目に記載

[廃棄]

- ・【13 廃棄上の注意】の項目に記載

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

成分	含有量(%)	CAS No.	官報公示整理番号
			化審法
エチレン1-ブテン重合体(添加剤含む)	48～96	25087-34-7	(6)-18
エチレンホモポリマー(添加剤含む)	48～96	9002-88-4	(6)-1
防錆剤	(註)	(註)	(註)

(註) 弊社ノウハウに係わる事項のため非公開

濃度又は濃度範囲(含有量)

情報なし。

4. 応急措置

吸入した場合

溶解したフィルムから発生するガスをひどく吸入した場合、新鮮な場所に動かし、医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
フィルムの角で眼球を損傷する可能性があるので清水で良く洗浄する。

飲み込んだ場合

できるだけ吐き出し、医師の診断を受ける。

暴露または暴露の
懸念がある場合

医師の診察や手当てを受けること。

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤

初期火災には、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂等を用いる。

使ってはならない消火剤
火災時の特定危険有害性

大規模火災には、霧状水、粉末消火剤を用いる。

ウォータージェット

当該製品は加熱すると分解して窒素酸化物を含む有害ガスを発生する可能性があるため、消火活動の際には煙を吸入しないように注意する。

特定の消火方法

消火作業は、可能な限り風上から行う。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

周辺火災の場合に移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。

消火のための放水等により、環境中に製品が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

状況に応じて保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用し、当該製品の吸入や直接接触を避ける。風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周囲はロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

状況に応じて保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用し、当該製品の吸入や直接接触を避ける。

風上から作業する。

環境に対する注意事項

利用可能な任意の手段により、流出物が配水管または水路から河川等の環境中に流出しないようにする。

流出した場合は、直ちに流出物を回収する。

封じ込め及び 浄化の方法・機材 二次災害の防止策	火花を発生しない電気掃除機、ほうき等の安全な道具で掻き集め、 密閉できる空容器に回収する。 消防隊に警告して、漏出箇所と当該製品の危険・有害性を伝える。
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い 技術的対策	保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。 取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を 設置する。 局所排気下、または全体換気のある場所で取り扱う。 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。 禁煙。 (可能な限り)水にて湿らせておくこと。 他の容器に移し替えないこと。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 取扱い後は手をよく洗うこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 環境への放出を避けること。
保管 技術的対策 適切な保管条件	情報なし。 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って保管すること。 施錠して保管すること。 直射日光を避け、換気の良い冷暗所で密栓して保管する。 炎、火花、若しくは高温体との接近、加熱、衝撃または摩擦を避ける こと。 保管容器は購入した製品の容器を使用し、みだりに別の容器に入れ 替えない。
8. 暴露防止及び保護措置 設備対策	蒸気の発生源を密閉する設備または局所排気装置を設ける。 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その 位置を明瞭に表示する。 設定されていない。
管理濃度 許容濃度	日産衛('06年版) : 設定されていない。 ACGIH ('06年版) : 設定されていない。
保護具 呼吸器用の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	必要に応じて防塵マスクを着用する。 不浸透性の保護手袋(ゴム手袋)を着用する。 保護眼鏡(普通型眼鏡)を着用する。 長袖作業着を着用する。
9. 物理的及び化学的性質 外観(物理的状態、形状、色) 臭い(及び臭いの閾値) pH 融点/凝固点 沸点、初留点と沸騰範囲 引火点 自然発火温度(発火点) 燃焼又は爆発範囲の 上限/下限 蒸気圧 蒸気密度 比重(相対密度) 溶解性 オクタノール/水分配係数 分解温度 その他のデータ 粘度 :	フィルム状 僅かな独特な臭い 知見なし 100~130℃ 知見なし 知見なし >400℃ 知見なし 知見なし 知見なし 知見なし 0.91~0.94g/cm ³ 不溶 知見なし >240℃ 知見なし
10. 安定性及び反応性 安定性 危険有害反応性 避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物	直射日光や窓際の明るい光等を当てると変質、変色することがあ 強酸、強塩基および強力な酸化剤、還元剤と接触して分解すると 二酸化炭素および有毒な窒素酸化物を発生する可能性がある。 炎、火花、若しくは高温体との接近を避けること。 強酸、強塩基、強酸化剤、還元剤。 常温では安定。300℃以上の高温において分解し、炭化水素及びその 酸化物(アルデヒド、酸、アルコール等)を生成する。

- | | |
|----------------|---|
| 11. 有害性情報 | |
| 急性毒性 | 区分外 |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 区分外 |
| 眼に対する重篤な損傷 | 区分外 |
| 生殖細胞変異原性(変異原性) | 区分外 |
| 生殖毒性 | 区分外 |
| 特定標的臓器毒性(単回暴露) | 区分外 |
| 特定標的臓器毒性(反復暴露) | 区分外 |
| 12. 環境影響情報 | |
| 生態毒性 | 知見なし |
| 残留性/分解性 | 知見なし |
| 生体蓄積性 | 知見なし |
| 13. 廃棄上の注意 | |
| 残余廃棄物 | 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、その団体に委託して処理する。 |
| 汚染容器・包装 | 廃棄物の処理を委託する場合、産業廃棄物処理業者に危険性、有害容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。 |
| 14. 輸送上の注意 | |
| 国内規制 | |
| 陸上輸送 | 非該当 |
| 海上輸送 | 非該当 |
| 航空輸送 | 非該当 |
| 輸送の特定の安全対策及び条件 | 火気、高温を避ける |
| 緊急時応急措置指針番号 | 非該当 |
| 15. 適用法令 | |
| 安衛法(労働安全衛生法) | : 非該当 |
| 16. その他の情報 | |
| 文献 | 1) nite(製品評価技術基盤機構)・CHRIP(化学物質総合情報提供システム)
2) 職場のあんぜんサイト-SDS
3) 原料のSDS |

記載内容の取扱い

※記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。また、この情報は新しい知見、試験等により改正されることがあります。

※注意事項は通常の取り扱いを対象としたものです。他の化学物質を混合したり、特別な取り扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を新たに講じた上で実施してください。

※すべての化学製品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。御使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。